

教育研究業績書

2024年10月22日

所属：看護学科

資格：助教（臨床）

氏名：小笠原 史士

研究分野	研究内容のキーワード
小児看護学	思春期, 小児がん, エンドオブライフケア, 意思決定
学位	最終学歴
修士（看護）	三重県立看護大学大学院看護学研究科修士課程

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. ジグソー法を取り入れた看護過程の展開（PBL）の実施	2021年9月1日～現在	武庫川女子大学看護学部講義科目「小児看護学II」（専門科目、2年次配当、必修1単位）、「チャイルド・デベロップメンタル・アプローチ」（専門科目、3年次配当、必修1単位）で実施した。小児の患者と家族を対象とした看護過程の展開の際にジグソー法を取り入れた。4名1グループの編成となり、学生は4つのアセスメントをそれぞれ担当する。担当したアセスメント同士の学生で集まり、エキスパートグループでグループワークをしてアセスメントをまとめる。もとのジグソーグループに戻って自身が担当したアセスメントについて他のメンバーへプレゼンテーションをする。4つのアセスメントを統合させて相談しながらグループワークを進めて、関連図の作成、問題明確化、看護計画の立案をする。4名1グループと少人数制にすることで全員が参加でき、担当があることで学生各自が責任を持ってグループワークを実施している。
2. 自己評価ルーブリックを使用した看護計画の展開（PBL）の実施	2021年9月1日～現在	武庫川女子大学看護学部講義科目「小児看護学II」（専門科目、2年次配当、必修1単位）、「チャイルド・デベロップメンタル・アプローチ」（専門科目、3年次配当、必修1単位）で実施した。小児の患者と家族を対象とした看護過程の展開をする際に自己評価ルーブリックを使用した。グループワークの各回の振り返りとしての自己評価をする際に、ルーブリックで望ましい学習熟度を具体的に示した。このことで、学生は毎回の授業でどのように取り組めばより高評価になるかが具体的に理解でき、教員との共通理解を深めることができた。
3. 看護計画の展開（PBL）でのプレゼンテーションの実施	2021年9月1日～現在	武庫川女子大学看護学部講義科目「小児看護学II」（専門科目、2年次配当、必修1単位）、「チャイルド・デベロップメンタル・アプローチ」（専門科目、3年次配当、必修1単位）で実施した。小児の患者と家族を対象とした看護過程の展開では、グループワークでまとめた関連図、問題明確化、看護計画の立案について、学生がプレゼンテーションを行った。時間が限られているため、発表するグループは当日のくじで決定した。プレゼンテーション10分、質疑応答5分として、発表が当たらなかったグループも司会やタイムキーパー、質問をするようにした。
4. スマートフォンで撮影した動画で振り返りを行う絵本の読み聞かせの実施	2021年9月1日～現在	武庫川女子大学看護学部講義科目「小児看護学II」（専門科目、2年次配当、必修1単位）で実施した。遊びと読み聞かせの演習では、前回の講義で習った絵本の読み聞かせの方法を実践するために学生間で絵本の読み聞かせを行った。ただ読み聞かせをするだけでは、自身がどのような声色、スピード、表情で読んでいるのかが理解できないため、学生はスマートフォンで動画を撮影し、自身で動画をみながら振り返り感想を書いた。学生からは「思っていたよりも早口で読んでいたので、気をつけたい」「読むことに集中していて表情が硬かった」などの意見がみられた。
5. 患児の事例に合わせたおもちゃの作成	2021年9月1日～現在	武庫川女子大学看護学部講義科目「小児看護学II」（専

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
6. スマートフォンで撮影した動画で振り返りを行う小児のバイタルサイン測定の実施	2021年9月1日～現在	門科目、2年次配当、必修1単位)で実施した。遊びと読み聞かせの演習では、6つの患児の事例から1つを選択し、患児に合わせたおもちゃを制作した。おもちゃは空き容器、ペットボトル、牛乳パックなどを使用して低コストで作成できることを条件とした。学生は、授業の時間内に工作を行い、完成したおもちゃの写真をレポートに添付して、使用方法や作成の意図などを書き提出した。
7. 事前課題としてのインターネット上の動画の視聴	2021年9月1日～現在	武庫川女子大学看護学部講義科目「小児看護学II」(専門科目、2年次配当、必修1単位)で実施した。小児のバイタルサイン測定の演習では、測定時の学生の表情や声かけが客観的に理解できるように、ベッド上にスマートフォンのスタンドを置いて動画を撮影した。子どもがどのような視点でバイタルサインを測定されているのか、学生はどのような表情で声かけをしているのかが分かり、学生からは「測定することで精一杯で声かけが十分にできていなかった」「顔がこわばっていたので、もっと笑顔が必要だった」という意見があった。
8. Google Meetを使用した学生と教員の双方向型の実習	2021年5月2021年6月	武庫川女子大学看護学部講義科目「小児看護学II」(専門科目、2年次配当、必修1単位)で実施した。小児の点滴固定の演習では、教員が制作した乳児のバイタルサイン測定方法の動画をweb上にアップロードし、学生は事前課題として動画を視聴して手順を図にまとめ、演習当日に実施する方法を取り入れた。学生からは「事前に動画を視聴しておくことで具体的な手順がイメージできた」という意見が多数みられた。
9. Google Classroomを用いた連絡や課題提出	2021年5月	武庫川女子大学看護学部実習科目「小児看護学実習」(専門科目、3年次後期～4年次前期配当、必修2単位)で実施した。コロナ渦の影響により臨地での実習が不可能になったことから、Google Meetを用いて、シミュレーション実習を行うこととした。1グループにつき、助教2名体制で実習を行い、事例の看護展開のいは、教員・医療スタッフ役と、患者・家族役に役割分担をした。実習開始までに、履修登録をしている学生をグループの指導用、個人指導用、病室用のGoogle Meetに招待し、ナースステーションと病室を想定した遠隔実習を行った。学生それぞれに事例を割り当て、学生は看護計画を立案し、教員役の教員から指導を受け、患者役の教員を相手に看護援助を実施した。本取り組みを行った学生の実習の学びは、臨地実習に行った学生の実習の学びと同じ内容が挙げられており、遠隔においても質を担保した実習を行うことができた。
10. 小児病棟を再現した部屋でのシミュレーションの実施	2021年5月	武庫川女子大学看護学部実習科目「小児看護学実習」(専門科目、3年次後期～4年次前期配当、必修2単位)で実施した。コロナ渦の影響により臨地での実習が不

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
11. 視聴覚教材を用いた学習	2021年5月	<p>可能になったことから、Google Meetを用いて、シミュレーション実習を行うこととした。学生が小児病棟の病室を想起しやすいように、看護科学館母性・小児実習室内に模擬病室を再現した。学生がGoogle Meet上で患者の療養環境及び行動・表情がよく見えるよう、患者・家族役の教員はカメラ位置を調整した。本取り組みで学生は遠隔でも患者の言動および療養環境を観察することができ、患者の状態に合わせた個別性の高い看護計画の立案。実施、評価をすることができた。</p> <p>武庫川女子大学看護学部実習科目「小児看護学実習」（専門科目、3年次後期～4年次前期配当、必修2単位）で実施した。コロナ渦の影響により臨地での実習が不可能になったことから、Google Meetを用いた遠隔実習を行うこととした。プリパレーションの学習については、インターネット上で公開されている動画等を画面共有機能を使用して見せ、内容や方法についての復習を行った。フィジカルアセスメントに関しては、DVD教材を画面共有機能を使用して見せ、復習を行った。看護過程の事例に関しては、紙ベースでの事例の配信前に、DVD教材を見せ、学生が子どもの発達段階を理解しやすいように工夫した。</p>
12. 講義の配布資料の工夫	2021年4月1日～現在	<p>武庫川女子大学看護学部講義科目「小児看護学I」（専門科目、2年次配当、必修2単位）、「小児看護学II」（専門科目、2年次配当、必修1単位）において実施した。学生への配布資料はパワーポイントのスライドを元に作成し、重要な用語については穴抜きとした。学生は講義を聞きながら穴抜きの箇所を記入しなければならないため、集中力を途切れさせずに講義を聞くことができる。学生は記入する箇所が多く過ぎると、記入することばかりに集中してしまうため、各スライドに1、2箇所のみ穴抜きとした。学生からは「眠くならず集中できた」というコメントが多くみられた。</p>
13. ルーブリック評価表を用いた実習の評価	2021年4月1日～現在	<p>武庫川女子大学看護学部実習科目「小児看護学実習」（専門科目、3年次4年次配当、必修2単位）において、学生の実習内容の評価を行うための指標として、ルーブリック評価表を作成した。これを用いることで、教員間での公平な評価が可能となり、指導のポイントの明確化もできた。教員間での点数の検討をする時間の短縮ができ、効果がみられた。また、Microsoft EXCELを用いてクリックするだけで採点ができるプログラムを導入し、採点の自動化を図った。</p>
14. 自己学習表を持ち込み可とした小テストの実施	2021年4月1日～現在	<p>武庫川女子大学看護学部講義科目「小児看護学I」（専門科目、2年次配当、必修2単位）、「小児看護学II」（専門科目、2年次配当、必修1単位）において実施した。講義の最後に毎回小テストを実施した。問題は前回の講義内容より、看護師国家試験の過去問を2、3問出題した。小テストは、前回の講義後に配布された自己学習票(A5サイズで左半分のみ書き込み可)の持ち込みを可とした。自己学習票の持ち込みをするには講義が終わってから書き込まなくてはならないため、学生に復習の習慣をつけることができた。小テスト後に、教員が問題の解説を行い、学生が自己採点をした。「講義で聴く」「講義後にテキストを見直す」「自己学習票にまとめる」「小テスト中にまとめた内容を読む」「小テストの解説を聴く」「定期試験前に復習する」と最低6回は反復して学習ができた。これまでに前回の講義を欠席した学生を除いて、自己学習票を白紙の状態に提出した学生はおらず、講義内容の復習につながっている。</p>
15. ミニツッペーパーを用いた双方向の授業	2021年4月1日～現在	<p>武庫川女子大学看護学部講義科目「小児看護学I」（専</p>

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
16. 看護計画の展開（PBL）でのルーブリックを使用した他者評価の実施	2021年4月1日～現在	門科目、2年次配当、必修2単位）、「小児看護学II」（専門科目、2年次配当、必修1単位）において実施した。毎回の講義の最後に、学生はミニツツペーパーを書き提出した。ミニツツペーパーには、今日の講義で学んだこと、感想、質問を書いてもらった。提出されたミニツツペーパーの内容を読むことで、学生は講義のどのような内容に興味をもったのか、また難しいと感じたポイントはどこなのかがよく理解できた。また、質問が書かれた際には次回の講義で回答した。このようにすることで、教員からの一方向的な授業ではなく、学生からの反応にフィードバックできる双方向の授業ができています。 武庫川女子大学看護学部講義科目「チャイルド・デベロップメンタル・アプローチ」（専門科目、3年次配当、必修1単位）で実施した。事例を用いて小児の患者と家族を対象とした看護過程の展開で、講義の最終回に関連図、問題明確化、看護計画の立案を他のグループが匿名で評価を行った。評価をする際には、ルーブリック形式の他者評価票を使用した。他のグループの学生が理解できる内容とするために、具体的にどのような関連図、問題明確化、看護計画とする必要があるのかを意識させながらグループワークを実施できた。
2 作成した教科書、教材		
1. 小児看護学バイタルサイン測定演習要項	2021年9月	「小児看護学II」（専門科目、2年次配当、必修1単位）において実施した。学内演習では「小児の身体計測」「小児のバイタルサインの測定」「小児の点滴の固定方法」について行っている。効果的に演習ができるように自己チェック型の演習要項を作成し、ペアの学生同士で適切に実施できているかのチェックを行わせている。学生は事前学習を行ってから演習に臨むことができおり、演習では主体的に取り組むことができている。
2. 小児看護学実習実習要項	2021年9月	武庫川女子大学看護学部実習科目「小児看護学実習」（専門科目、3年次4年次配当、必修2単位）において実施した。学生の実習が円滑に進むために、実習目的、実習目標、実習のスケジュール、実習の展開方法、提出物、記録の様式、から構成される実習要項を作成した。実習要項をもとに実習前にオリエンテーションを行うことで、学生は実習の具体的な展開が理解でき、不安なく実習を進めることができた。また、記録についてももれなく提出することができた。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 三重県立看護大学大学ティーチングアシスタント	2019年5月2020年1月	ティーチングアシスタントとして三重県立看護大学4年生へ実習指導を行った
4 その他		
職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 保健師	2010年3月～現在	
2. 看護師	2010年3月～現在	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		
研究業績等に関する事項		

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
2 学位論文				
1.小児がんで入院中の思春期の子どものエンドオブライフケアに携わる看護師のケアにおける困難感の構造	単	2021年3月	三重県立看護大学大学院看護学研究科修士論文	本研究は、思春期の小児がんの子どものエンドオブライフケアに携わる看護師の困難感の構造を明らかにすることを目的とした。日本小児がん研究グループ病院の看護師を対象に、自作した小児のエンドオブライフケアの困難感に関する質問44項目の質問紙調査を実施し、探索的因子分析により、困難感の構造を表した。
3 学術論文				
1.小児がんで入院中の思春期患児のエンドオブライフケアに携わる看護師の困難感の構造	共	2022年9月	小児がん看護, 17(1), 39-49	思春期がん患児のエンドオブライフケアにおける看護師の困難感の構造を明らかにするために、思春期がん患児のエンドオブライフケア経験のある看護師に質問紙調査を実施した。小児がんの思春期患児のエンドオブライフケアの困難感は、【患児や家族とのコミュニケーションの取り方】、【患児の治療方針や看護方針についての情報共有】、【患児の意思や現状を尊重した上での最善の関わり】、【患児を看護する際の自己の気持ちのコントロール】、【入院環境や規則の調整】、【患児と看護師の心身の苦痛を緩和する知識や技術】の6因子30項目から構成された。エンドオブライフケアにおける困難感は、思春期の心理的特性や社会性が反映された内容となった。 本人担当部分：データ収集と分析、はじめに、方法、結果、考察 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：小笠原史土、前田貴彦
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. Factors Affecting Quality of Life in Children of Foreign Nationality Living in Japan and Japanese Children	共	2024年3月	27th EAFONS 2024 conference	日本に住む日本人と外国籍の子どもたちのQOLに影響を与える要因について質問紙調査によって明らかにした。 調査は7-17歳の子どもをもつ日本人の親300人、外国籍の親100人を対象に行った。分析はt検定、カイ二乗検定、重回帰分析を行った。 分析の結果、外国籍の母親は「正規雇用」の割合が高く、日本人の母親は「専業主婦」の割合が高かった。また、日本人の子どものQOLには、宗教上の食事の制限、子どもの持病、母親のソーシャルネットワークが影響していた。外国籍の子どものQOLには、宗教上の食事の制限、経済状況、食糧援助の利用、朝食の摂取状況が影響していた。 朝食の摂取や宗教上の食事制限といった食生活は子どものQOLに影響を与えることが考えられる。特に正社員の外国人の母親をもつ子どもは母親と過ごす時間が短くなる可能性がある。今後は多言語教材を使用した適切な食育が必要となると考える。 共著者名：小笠原史土、脇本景子、福井美苗、工藤大祐、加藤丈太郎、藤井達矢、大坪明、藤田優一
2. Concept Analysis in Decision-Making Support for Adolescents with Cancer and Their Parents	共	2024年3月	27th EAFONS 2024 conference	思春期がん患者とその親の意思決定支援について、国内外の文献から概念分析を行った。分析の結果、7つの属性【患者や親との信頼関係の構築】【患者のニーズや病状への思いについてのアセスメント】【親の価値観や考えについてのアセスメント】【意思決定をするための適切な情報提供】【患者の意思表出を促す援助】【親と患者の思いや考えが対立する際の仲介役】【患者や親の選択への寄り添い】、4つの先行要件、3つの帰結が抽出された。 本概念は、「患者や親と信頼関係を構築し、患者のニーズや病状への思い、親の価値観や考えについてアセスメントし意思決定できるよう適切な情報提供を行う。患者の意思表出を促し、親と患者の考えが対立する場合は仲介役となり、患者や親が出した選択には寄り添うこと」と定義した。“親と患者の仲介役になる”のように意思決定できる年齢にありながらも親が代わりに意思決定するといった思春期の特徴が表れた。 共著者名：小笠原史土、福井美苗、北尾美香、藤田優一

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
3. 学童期の唇顎口蓋裂患児と親に対するセルフケアの自立に向けた看護師の援助内容	共	2023年7月	日本小児看護学会第33回学術集会	唇顎口蓋裂（CLP）治療を専門的に治療している施設の看護師が学童期のCLP患児と親のセルフケア自立のための援助についてインタビューを行い明らかにした。 援助は143コードが抽出され、6カテゴリ、22サブカテゴリ、に類型化された。 著者名：北尾美香、 <u>小笠原史士</u> 、福井美苗、藤田優一
4. コロナ禍で入院する子どもとその親に対する看護師の実践：子どもの権利擁護と付き添いや面会に関する親の負担軽減への工夫	共	2023年7月	第33回日本小児看護学会学術集会	感染対策を行いつつ実施している「子どもの権利擁護」および「付き添いや面会に関する親の負担軽減」の具体的な工夫点について、看護師長または副看護師長を対象にインタビュー調査によって明らかにした。付き添いや面会に関する子どもの権利擁護への工夫点については、13コードを抽出し4つのカテゴリに、付き添いや面会に関する親の負担軽減への工夫点については、22のコードを抽出し、4つのカテゴリに類型化された。 共著者名：藤田優一、植木慎悟、北尾美香、福井美苗、 <u>小笠原史士</u>
5. 思春期がん患者のエンドオブライフにおける患者と家族の意思決定を支える看護実践	共	2023年7月	日本小児看護学会第33回学術集会（神奈川）	思春期がん患者のエンドオブライフにおける患者と親の意思決定を支えるために看護師が実践している具体的な内容を明らかにするために、思春期がん患者のエンドオブライフケア経験のある小児看護経験5年以上の看護師を対象にインタビュー調査を実施した。看護師の実践内容は【患者の疾患や予後に対する認識の情報収集】【患者の意思決定を促す援助】【親の意思決定を支えるための関わり】【患者や親の意思決定を支えるための医療者間の連携】【患者が意思決定できるための心理面・体調面のコントロール】の5つのカテゴリに分類された。その内容は、患者や親に直接的に働きかける内容だけでなく、認識のアセスメントや他職種での連携など間接的に働きかける内容もみられた。 共著者名： <u>小笠原史士</u> 、福井美苗、北尾美香、藤田優一
6. 学習支援ボランティア「ふでばこ」に参加する学生、卒業生を対象としたインタビュー調査		2023年2月15日	第7回武庫川女子大学研究成果の社会還元促進に関する発表会（学内発表会）	「ふでばこ」に参加する本学の学生6名、卒業生3名を対象に、活動の動機、活動で困難に感じる点、今後「ふでばこ」がどのようになっていくと考えるか、についてインタビュー調査を行い明らかにした。活動の動機としては、「子どもたちの役に立ちたかった」や「子どもと関わる貴重な機会になると思った」「子どもたちが楽しんでくれてうれしい」「子どもたちの居場所づくりになる」などの意見がみられた。外国にルーツを持つ子どもたちだけが参加できる「ふでばこ」は貴重な「居場所」であると学生は認識していた。今後は支援の規模を拡大したいという意見があった一方で、ボランティアメンバーの不足や会場の人数制限などの困難を感じていた。 共著者名：藤田優一、福井美苗、工藤大祐、 <u>小笠原史士</u> 、脇本景子、加藤丈太郎、藤井達矢、大坪明
7. 大規模団地で新型コロナ後に再開された「夏祭り」の子ども達にとっての意義：高須夏祭りでのアンケート調査を通して	共	2023年2月15日	第7回武庫川女子大学研究成果の社会還元促進に関する発表会（学内発表会）	武庫川団地における夏祭りの子どもたちにとっての意義あるいは役割を改めて探るために、食物栄養科学科脇本ゼミでの模擬店と、教育学科藤井ゼミのらくがきトラックに参加した子どもたちにアンケート調査を行った。175件の回答があり、小学生が100件と最も多かった。小学生の半数近くが団地内の居住で、83%が夏祭りに複数回来ていた。楽しさの程度では94%が「とても楽しい」と答えていた。また、小学生は他国出身の友達と共に参加した者の割合は11%であった。 共著者名：大坪明、藤田優一、藤井達矢、脇本景子、加藤丈太郎、工藤大祐、福井美苗、 <u>小笠原史士</u>
8. 外国にルーツをもつ子どもの学習支援ボランティア「ふでばこ」に参加する学生、卒業生を対象としたインタビュー調査（第2報）－困難に感じる点、今後の「ふでばこ」、団地	共	2023年2月	国際ボランティア学会第24回大会（東京）	外国にルーツをもつ子どもたちへの学習支援学生ボランティア「ふでばこ」の学生を対象に、活動するにあたっての困難や今後の活動についてインタビューを実施した。活動上の困難については「ボランティアメンバーの人員不足」などがあった。今後の活動については「ボランティアの学生の人数を増やして参加できない児童が参加できるように規模をもっと大きくしたい」などがあった。メンバーの不足と会場の人数制限の関係から、規模を大きくすることが難しい現状がある。 学校側と協力しつつ、会場を提供してもらうこともひとつの方法で

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
住民と共に支え合っ て生活するにはー 9. 外国にルーツをもつ 子どもの学習支援ボ ランティア「ふでば こ」に参加する学 生、卒業生を対象と したインタビュー調 査（第1報）ー活動に 参加した動機、活動 を継続している理由 ー	共	2023年2月	国際ボランティア 学会第24回大会 （東京）	あると考える。 共著者名：堀江正伸、藤田優一、大坪明、藤井達矢、脇本景子、加藤丈太郎、工藤大祐、小笠原史士、福井美苗 外国にルーツをもつ子どもたちへの学習支援学生ボランティア「ふでばこ」の学生を対象に、活動の動機についてインタビューを実施した。参加した動機は「教職免許をとるにあたって子どもと関わる貴重な機会になると思った」などがあり、学生の将来の職業選択に向けて子どもたちと接することのできる貴重な機会になっていた。 共著者名：堀江正伸、藤田優一、大坪明、藤井達矢、脇本景子、加藤丈太郎、工藤大祐、小笠原史士、福井美苗
10. 思春期小児がん患児 のエンドオブライフ ケアに携わる看護師 の困難感に関する文 献検討	共	2022年6月 24日	第69回日本小児保 健協会学術集会	本研究は、思春期小児がんの子どものエンドオブライフケアに携わる看護師の困難感の内容を明らかにするため、国内の小児がんおよび小児エンドオブライフケアの文献検討を行った。 本人担当部分：データ収集と分析、はじめに、方法、結果、考察 共著者名：小笠原史士、前田貴彦
11. 小児がんで入院中の 思春期の子どものエン ドオブライフケアに携わる 看護師のケ アにおける困難感の 構造	共	2021年12月 4日	第41回日本看護科 学学会学術集会	本研究は、思春期の小児がんの子どものエンドオブライフケアに携わる看護師の困難感の構造を明らかにすることを目的とした。日本小児がん研究グループ病院の看護師を対象に、自作した小児のエンドオブライフケアの困難感に関する質問44項目の質問紙調査を実施し、探索的因子分析により、困難感の構造を表した。 本人担当部分：データ収集と分析、はじめに、方法、結果、考察 共著者名：小笠原史士、前田貴彦
12. 看護師からみた小児 病棟におけるホスピ タルクラウンの可能 性と今後の課題”	共	2011年12月	第31回日本看護科 学学会学術集会 （高知市）	”ホスピタルクラウンが活動している小児病棟の看護師を対象に質問紙調査を行い、ホスピタルクラウンの活動の可能性と課題を明らかにした。 本人担当部分：データ収集と分析、はじめに、方法、結果、考察 共著者名：小笠原史士、小池敦、前田貴彦”
3. 総説				
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
6. 研究費の取得状況				
1. 感染対策と子どもの 権利擁護、親の負担 軽減の両立を目指し た入院ガイドライン の開発	共	2022年4月～ 2025年3月	科学研究補助金 「基盤研究C」	新型コロナウイルス感染症の拡大によって、小児病棟では親の付き添いの制限、面会禁止など子どもの権利が養護されていない状況が擁護、親の負担ある。また、親が付き添う際には、睡眠がとれない、食事がとれないなど親の負担は大きい。本研究では3段階の研究を通して、看護師長よりコンセンサスの得られた「子どもの権利擁護や親の負担軽減と両立できる感染予防策」および、親が賛同する「子どもの権利擁護や親の負担軽減と両立できる感染予防策」を明らかにする。これらの研究結果をもとに『感染対策と子どもの権利擁護、親の負担軽減の両立を目指した入院ガイドライン』を開発する。 共同研究者：藤田優一（研究代表者）、北尾美香、福井美苗、小笠原史士、植木慎悟
2. UR団地での多文化共 生の多面的プログ ラム提供と指導者育 成：助成金3510万円	共	2021年8月～ 2023年7月	2021年度ニッセイ 財団児童・少年の 健全育成実践的研 究助成（2年助成研 究）	武庫川団地を研究フィールドとして、当該団地の外国人家庭の子どもたちを中心に、そのQOL(Quality of Life)及び社会的包摂の度合いが、現状より高まる状況を目指すことを目標とする。健康、芸術、食育、街づくりの視点から、外国人家庭の子どもに対する学習指導ボランティア「ふでばこ」を通して、多角的な介入を行う。 共同研究者：藤田優一（研究代表者）、大坪明、堀江正伸、藤井達矢、脇本景子、加藤丈太郎、小笠原史士、工藤大祐、福井美苗
3. 思春期がん患者のエン ドオブライフにお	単	2021年4月～ 2023年3月	科学研究費補助金 （研究活動スター	思春期がん患者のエンドオブライフにおける意思決定支援は、患者が意思決定できる年齢にありながらも親の意見が優先されるといっ

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
6. 研究費の取得状況				
ける意思決定支援モデルの開発			ト支援)	た倫理的な困難や、思春期特有の自分の思いを話さなかったりといった心理的特性に関わる困難が合わさり、より困難となる。本研究は、二段階の研究により、①インタビュー調査によって思春期がん患者のエンドオブライフでの意思決定を支援する看護師の具体的な看護実践内容を明らかにする、②2段階デルファイ法による調査で実践経験のある看護師よりコンセンサスが得られた「思春期がん患者のエンドオブライフでの意思決定を支援する看護実践」を明らかにし、『思春期がん患者のエンドオブライフにおける意思決定支援モデルの開発する。

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2021年11月～現在	外国にルーツをもつ子どもたちへの学習支援ボランティア「ふでばこ」参加 まちの保健室 西宮市保健所応援
2. 2021年8月～現在	
3. 2021年5月2022年3月	